

## 御神楽岳 1386m

2019 年 6 月 17 (月) 18 (火) 栗崎夫妻 秋葉 下山田 馬場



福島県金山町の本名ダムから未舗装林道に入る、山開きが終わったせいかジャリが敷いてあり走りやすい25分ほどで登山口に着く、車4~5台のスペースが有り焚火の痕もある。

天候は午後から回復のはずが、時々日もさすが小雨も降る、霧来沢沿いの平坦な登山道を歩く、泥濘の多い所には板切れが渡してある、ほどなく八乙女の滝に着く、小さな滝だが水量は多い滝を巻くように鎖場を超えると流れは滑沢になる、なかなかいい景色です、数回の渡渉へて沢を離れ尾根に取り付く、最初はジグザグの道だが、松の痩せ尾根の急登になる杉山ヶ崎をへて、5、6本の鎖がある岩場を越えるとほどなく避難小屋に着いた。

小屋には、新品の薪ストーブ 焚き付けの切られた木材 新聞紙 灯油 ポリタン 鍋 やかん 毛布などが置いてあり非常に有り難い。

栗崎夫妻と秋葉さんは200m先の水場に水汲みに出かけ、私と下山田さんは、さっそく薪ストーブに火を付ける、雨露で濡れた下半身のせいで寒いがストーブの熱が伝わるとともに、ほっとした気持ちになる。

水場に行った3人が戻り、今回の山行の目的、宴会の始まりです、まずはラッキョウの味噌付けとアンチョビーソース添え、即席佃煮、シェフ特製の煮あなご、すべてがおいしい最後に登場したのが埼玉県行田市のB級グルメフライ(鰯フライとはまったく別物です)シェフとマダムに作っていただき食べました、素朴な味で一枚でも腹にくる。



翌日サブザックに替えて小屋を出る、本名御神楽山頂にほどなく到着、今日は快晴で下界に雲海が広がりすばらしい景色、御神楽岳をめざすが、藪がかりの登山道で足下見えない、しかも木の根伝いで油

断するとすっぱり切れた絶壁に飲み込まれそう、(御前ヶ遊窟の沢沿いの道で、着いた右足が草の上そのまま3mほど滑落して右脛から出血したがなぜかワークマンのパンツは健在)の経験が甦り腰が引けるがなんとか御神楽岳に到着、山頂からは360度の展望で守門 越後三山 飯豊とすべての山を見渡せる、秋葉さんと渡辺(敏)さんが登り下った蟬ヶ平コースの尾根も見え参加しなくて良かったと胸をなでおろすとともに、今回の山行の目的はこれだと反省し下山、お世話になった避難小屋に戻り清掃して帰りました。



17(日) 登山口13:00→避難小屋16:10  
18(日) 避難小屋6:00→御神楽岳7:30→避難小屋9:00→登山口12:00

(文責 馬場)

## 姥湯温泉から東吾妻山周回

7月13日(土) 渡辺敏夫

吾妻山の明月荘に泊ってみたいと思っていた。雪が残り花が一杯咲いている時期がいいと思っていたが、なかなか機会がなく、暑くなる前にと考えていましたが、二日続きの晴天日がなく登山口に前日車中泊して日帰りとした。時間がかかると思い、夜明けとともに出発した。姥湯は山中の秘湯と呼ばれる温泉で、硫黄のおいが立ち込め、山肌が所々茶色くむき出しになっている。登山道は薬師森まできれいに刈払われているが、薬師森から明月荘までは藪が登山道を覆い隠しているので歩きにくい。明月荘手前には水場があり快適な避難小屋だ。弥兵衛平は高層湿原地帯でワタスゲとイワイチヨウが一杯咲いていました。明月荘から東大巔までは刈払われていますが、そこから兵子まではまた藪がひどく非常に歩きにくい。所によっては足元が見えないので、注意深く歩く必要があり時間がかかる。



兵子から姥湯まではきれいに刈払われている。おそらく姥湯温泉の関係者の努力によるものと思われ感謝。烏帽子山からは谷地平の湿原地帯、それを取り巻くように中吾妻山、東吾妻山、一切経山それに家形山とぐるりと見渡せる。吾妻山は原生林が頂上近くまで覆われ静かな山旅が楽しめる。

1日誰ともすれ違うことなく、一人でゆっくりと楽しむことができた。





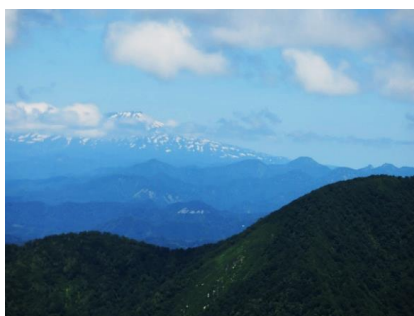
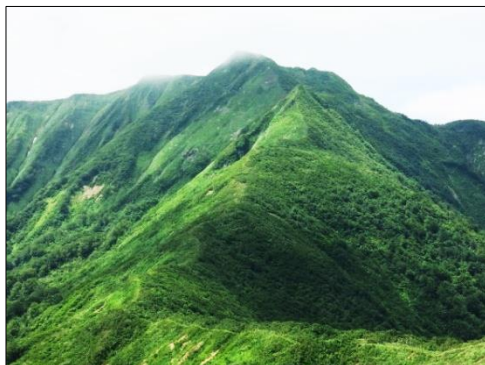
権八小屋跡で台山からのコースと合流する。なだらかな上り下りを繰り返し、風とガスが強くなり、最後の急登を登ると小屋に着く。水場まで下り水を補給する。夜半に風は増々強くなり

コースタイム：銀次郎小屋 6：00→砂利押沢入口 6：40→履き替え 7：35→水場 8：25  
→権八小屋跡 10：30 小屋 13：35

7月7日

下山田さんたち3人は有屋口に下山、私たち4人は縦走することにした。

相変わらず風が強く、ガスで展望も利かない。神室山（1325m）頂上を踏んで天狗森に向かう。



この道は何年か前にも歩いているが、以前はきれいに仮払われていて絶好の展望であった。しかし、現在は登山道整備をしていた人が高齢化し、刈り払いが行われていない。登山

道は明瞭だが藪が被っていて足元が見えない。そこを風で何度か横に飛ばそうになり、よろめきながら歩くのは結構大変であった。天狗森の三角点も藪に隠れていた。



神室連峰最高峰の小又山を過ぎると、漸くガスが薄くなってきた。黒滝峰からは端麗な火打が姿を現してくれた。雪溪の残る鳥海山も遠望できた。風は相変わらず強い。

砂利口から少し下って、風を避けて早い昼食とする。

砂利押沢コースは急斜面を下ったり、トラバースしたり沢を何度か徒渉したり、名前の通り凄まじいコースであった。杉林を過ぎ土内川を徒渉し林道に出る。

コースタイム：小屋 5：35→天狗森 8：00→小又山 9：25→黒滝峰 9：55→砂利口 11：45→砂利  
押沢入口 14：30→銀次郎小屋 15：00  
（文責：秋葉）



# 飯豊山 登山教室

初日（7/13）参加者 16 名（生徒 4 名 会員 12 名）

報告者：野 地 敦 雄

今回は、二泊三日の長帳場を自分なりにどう臨むかを考える山行としました。

1. 先ずは天気。梅雨時期の晴れの合間を狙う登山。雨対策。
2. 16 名パーティーのテント泊。天候悪化時のテント等対処方法
3. 一日約 7～8 時間の行程 ザックの重さ 15Kg 余り 体力は？
4. 何よりの期待は、登山道に溢れる高山植物と東北のアルプスと呼ばれる景観

## 【初日】

朝 3：50 いわき合庁早めの出発。と行きたいところであったが、なんと N 氏 三種の神器（合羽）を自宅へ忘れると言う失態。皆様の御好意により N 氏自宅に寄ってからの出発となる。（今後 3 年はカップバ失念事件として語り継がれるであろう！（>＜））R49 から、高速いわき三和 IC～会津坂下 IC 山都町経由、7：15 小白布沢 登山口 P へ到着

林道から登山口まで約 20 分間。ズッシリと重いザックの微調整をする。7：55 これから本格登山道へ分け入り皆々の静かな気合が入っていくのを感じる。ガスもどうやら徐々に消えていきそうな予感。

進む登山道は狭いが両側にはアカモノ、コイワカガミ、マイヅルソウが咲き誇り疲れを癒してくれる。

10：20 漸く川入・長坂尾根との合流点・横森分岐に着く。美味しい水場はこの先、と励まされ 30 分後「名水・峰秀水」へと辿り着く。岩盤から流れ出る水は全てが浄化されたと思える美味しい水だ。皆、めいめいに汲み合い喉を鳴らす。11：15 地蔵山分岐で軽食休憩をとり序盤戦の疲れをとる。

12：00 丁度いよいよ本日の難所剣ヶ峰へ差し掛かる。岩場には可憐なヒメサユリ数輪が出迎えてくれる。また、岩場の陰には「古銭」が数枚落ちており歴史のある信仰登山に思いを馳せる。徐々にガスが上り、時折、猪苗代湖まで見渡せる光景にも出会うことが出来た。

飛び交うトンボの数も半端無く多く、写真に大きく映り込む。このトンボが登山中の虫刺ささを予防してくれたことに感謝する。足元の一步一步を慎重に確かめながら 1 時間半、全員が岩場を過ぎると一気に稜線に出、13：30「三国岳避難小屋」へ着く。

多くの登山者が既に到着しており、思い思いに歩いてきた登山道を振り返る。またガスが取れる瞬間には対岸の飯豊連峰主稜線上の御西小屋を豆粒のように見ることが出来る。休憩を挟み後半戦の登山へと臨む。ここまで横峰・地蔵山・三国岳と三つの山を越してきたものの、今夜の宿泊地切合小屋までは未だ 2 時間半の道のりと聞き、再びの緊張が走る。

しかし稜線歩きは快適だ。今までの苦労が報われた感じがする。気分的にはスキップしたいが残念ながらザックの重みで足元はたどたどしい。稜線上は、今まで以上に花々があふれている。ニッコウキスゲ、ハクサンシャクナゲ、ムカゴトラノオ等が加わり楽しませてくれる。秋葉校長への花の質問も多くなる。

振り返ると、三国小屋がいつの間にか小さい。振り返る対岸は三国岳からの稜線で疣岩山、そして昨年登った鏡山と続く。

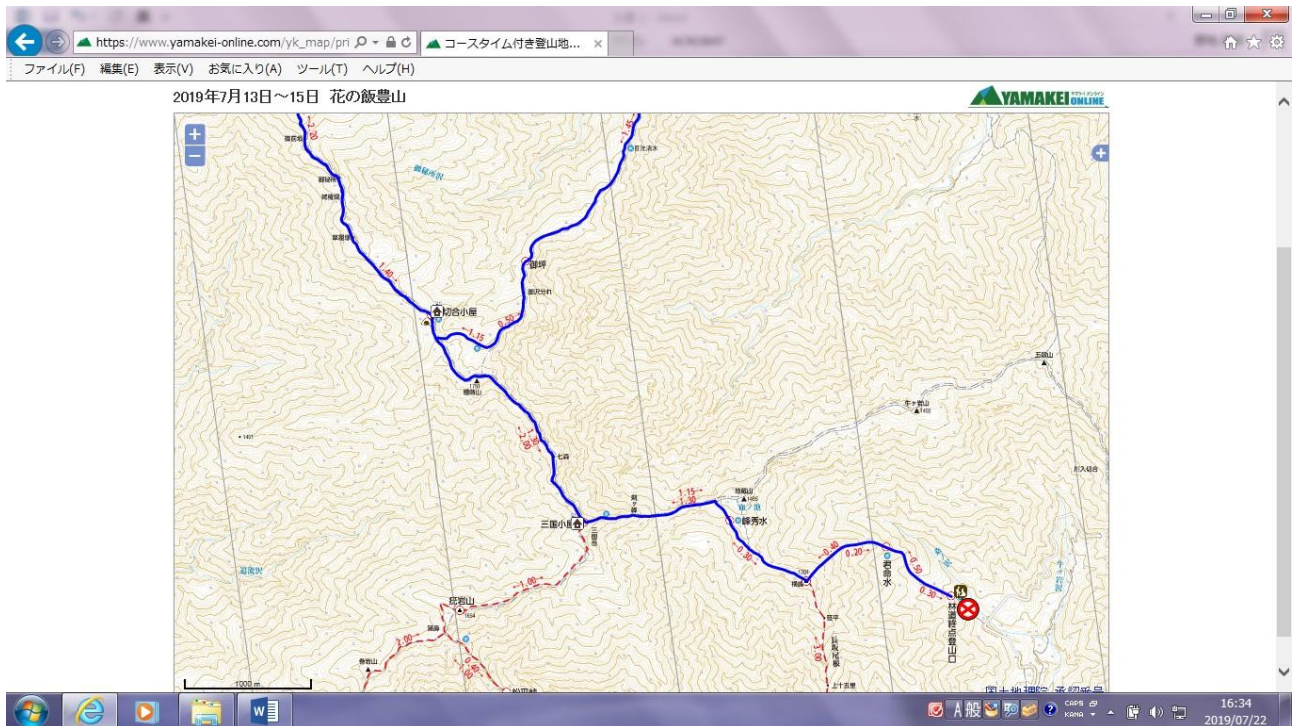
七森を過ぎ、種蒔山直前から見る「切合小屋と雪渓」のコントラストが素晴らしい。「この光景に出合いたかったんだよなー！」の声も聞こえる。絶景である。ガスが瞬時に消え見渡す限りの山々そして谷筋に広がる雪渓。自然とため息がでる。この場に居なければ味わえない風景・眺望が雪渓の冷気を通し五感に響く。皆が目で語る「これだよ！これなんだよ！」と。

雪渓歩きを慎重に前者の足跡を忠実にたどりながら、漸くにして「切合小屋」へと着く。16:25 出発から9時間余りを要した素晴らしい一日に充実感が溢れる。

そして到着後、急ぎ3パーティーに分かれテント設営をし「今日の反省会、宴会」へと突入する。その後、夜のテントを叩きつける雨と不安。テント内の静かなる陣取りゲームと気遣い。睡眠不足に陥りながらも必死で寝なければと、もがく努力が続く。翌日は・・・・

【初日 コースタイム/所要時間：約9時間休憩含む】

小白布沢登山口(7:55)→横森分岐(10:20)→峰秀水(10:57)→剣ヶ峰(12:00)→三國小屋(13:30)→種蒔山(15:50)→切合小屋(16:25)



種蒔山前から望む



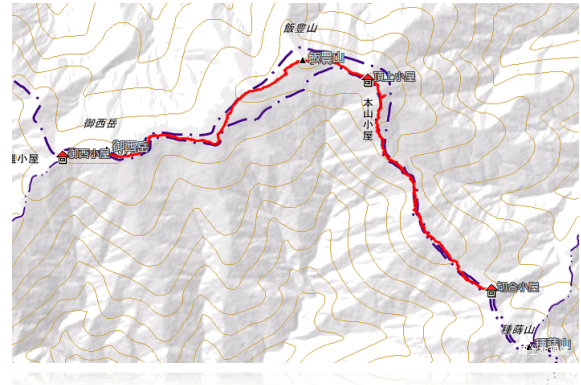
登山中最初に見つけた ヒメサユリ

## 飯豊山縦走【2日目】(7月度登山教室)

2019年7月14日 山岳会 11名、登山教室5名

夜中にテントを打つ雨の音が気になりながらも、外の話声や準備の音が大きくなるまで、うとうとしていました。

朝、小雨とガスの中、大日岳までは無理そうなので、5:00に飯豊本山までを目標にスタートしました。今日はサブザックなので、昨日に比べるとかなり楽です。まずは、雪渓を越えて草履塚へ。途中、一時的に雨脚が強くなりましたが直ぐに小降りとなり、草履塚で小休止。登るにつれ、ガスは晴れないものの、雨は上がってきました。山の景色が見れないのは残念ですが、色々な花が癒してくれました。



御秘所も、視界が悪いためか、あまり高度感も感じず全員無事通過しました。ただ、下山も同じルートなので、下りの方がいやな感じです。御前坂からのジグザクの急登をクリアし、全員で飯豊本山に無事登頂しました。本山小屋の手前に「イイデリンドウ」の標識がありましたが、良く見ないと見落としてしまいそうな蕾が少しだけありました。天気の良いと開くそうです。



飯豊山 登頂！

飯豊山山頂で記念写真を撮影後、折角なので、秋葉校長の引率の元、太さん、菊池さん、上遠野さん、赤塚(園)さん、猪狩さん、小林の7名で御西小屋まで往復することになりました。飯豊本山から御西小屋間の稜線は、一部風の強い箇所もありましたが、ミヤマキンポウゲやチングルマ(たぶん)の花畑や、その他にもニッコウキスゲやハクサンコザクラ他色々な花があり楽しめました。これで稜線が見渡せたらどんなに素晴らしい景色だろう(たぶんやミツキになりそう)。

御西小屋でも小屋裏(旧式トイレの横)にはミヤマキンポウゲが群生しており、見事でした。

秋葉さんから、北股岳からの稜線もすばらしいとの話を聞き、天気の良い、かつ、花の時期にチャレンジしてみたいと思います(小屋泊で)。

復路の御秘所も無事通過し、切合小屋に戻ると、先に帰ったメンバーが既に自炊室で宴会準備を完了しています。かたづけもそこそこに、ビールで乾杯。今回、テント毎に夕食メニューの用意しており、全員で少しずつ頂きました。ハムステーキ(パイナップル添え)、厚切りベーコンソテー、カモ肉入りすいとん鍋、パスタなどなど、美味しく頂きました。

今日は女性陣は小屋泊となったので、男性陣のみテント泊で、8人用テントに4人(昨日は8人)でゆっくり就寝できました。明日は下山の日、天気はどうでしょうか。(小林記)

## 行動記録

### 【2日目】

7月14日(日) 切合小屋 5:05→6:00 草履塚 6:30→6:45 姥権現→御秘所→7:25 御前坂→8:10 本山小屋 8:30→8:40 飯豊山頂 9:00→9:15 駒形山→10:10 御西岳→10:20 御西小屋 10:35→11:40 駒形山→12:10 飯豊山頂→12:35 本山小屋→13:20 御秘所→1340 姥権現→14:10 草履塚→14:40 切合小屋



御西小屋遠征メンバーで



楽しいひと時、ごちそうさまでした

(文責 小林憲児)

## 石城登山教室 7月山行 飯豊山(3日目)

2019年7月15日(月)

教室5名 山岳会11名 計 16名

切合のテント場は朝から雨。起床し、身支度やテントの撤収作業を行っている、雨脚は徐々に霧雨となる。小屋周辺ではブヨが多く、前日に刺された方も少なくなかった。赤塚さんから蚊取り線香を貸して頂き対策できた。

下山は当初の計画を変更し大日杉小屋口になった。曇天の空模様のなかテント場を出発。種蒔山手前の大日杉分岐を地藏岳方面へと進路をとる。

途中2か所ほど雪渓があった。早朝の雪渓は固く、霧雨で滑りやすい状況。濃霧のなかアイゼンとポールを使って雪渓を渡る。(小林さんにポール1本貸して頂く)

御坪までは尾根歩き。あいにくの天気で眺望ゼロだったのが残念。晴天なら素晴らしい眺めだろう。道中の所々でヒメサユリ、シラネアオイ、タニウツギなどの花が咲いていた。今回の山行では、諸先輩方に花の解説をしてもらったので、復習しながら下ったがなかなか覚えられない(汗)。



地蔵岳山頂の休憩。「報告書にかけるネタがない」とぼやいていると秋葉校長にミレーのアミアミでパフォーマンスをして頂いた。私も所有しているが、大量の汗をかく登山では本当に効果絶大でこの飯豊山行でもそれを実感した。

地味なアップダウン、急斜面のトラバースが続く。この山域の特徴はこれなんだと実感する。

長之助清水の給水は一番難易度が高かった。本来の水場までの道が崩落により失われており、崖をロープ伝いに渡る必要があったので苦労した。そうした甲斐もあってか清水はうわさ通りおいしかった。

ザング坂を無事に通過。しかし、その後のぬかるんだ急斜面でコケた。ロングハイクではよく経験してたのに防げなかったことが悔しい。

ようやく下山口。平子会長の姿が見えて、2kmの車道歩きがなくなって心身ともに軽くなり安堵した。

整理運動後、「いいでの湯」で汗を流し、食事処で十割そばを頂いた。本当に美味しかった。その後、山都の道の駅により帰路へ着いた。

感想として、標高は2000m級だが、アップダウンや急斜面のトラバースが多く、荷重や天候もあるがかなりハードな印象が残った。また、森林と水の多い飯豊のような山域では虫対策は重要だった。

濡れた8人用テント（本体）がなかなかの重さだった。テントが大きくなれば蓄える水分もまた多くなることを実感したのでしばらくは避けたい。



切合小屋5：00→雪渓5：40→御坪6：54→地蔵岳9：02→御田10：47→長之助清水11：05→大日杉登山小屋12：18

（文責：猪狩）

## 山行報告 雨に追われて南アルプス

2019年7月24～27日 秋葉信夫

長い梅雨も漸く開けそうで週間予報では晴れが続いている。このチャンスを逃さない。南アルプスには何度か行ってるが、赤石岳と聖岳の間は歩いていない。中でも「百軒洞」という名の地がどんなところか興味深々である。

第1日 樫島へ 7月24日（水） 移動（約9時間）

目覚めて直ぐに自宅を出発する。樫島でテント泊。

湯本 IC3：00⇒新静岡 IC⇒畑薙第一ダム 10：00

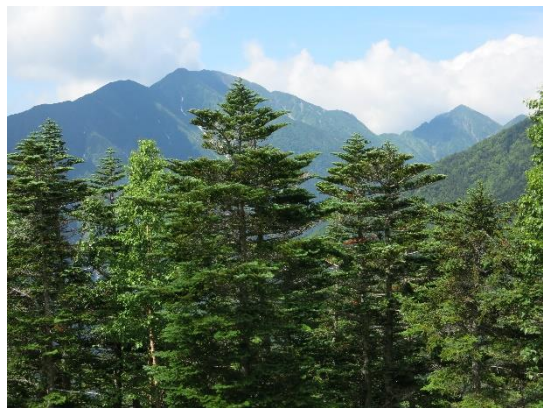
畑薙第一ダム 10：30⇒シャトルバス⇒樫島ロッジ 11：30 テント泊



## 第2日 赤石岳～百軒洞へ 7月25日（木） 行動時間 10時間 50分

登りの連続。赤石小屋で休んでいると、後続の人が「天气が崩れる」というので急いで出発する。富士見台からは赤石岳、聖岳、荒沢三山の展望が広がる。岩場のトラバースと赤石沢添いの延々と続く登りだが高山植物が百花繚乱である。

赤石岳頂上避難小屋に宿泊の予定だったが、まだ時間が早いのと、天气が崩れる前に行けるところまで行きたいと足を延ばす。



赤石岳からはガスがかかって展望が得られなくなった。結構の下りでやっとの思いで百軒洞小屋に到着。テントを持っているが、東海フォレストのシャトルバスを利用するので小屋に1泊以上しなければならない。

テント、食料5日分を背負っての登り標高差2350mはさすがにこたえた。

榎島ロッジ 5:00→赤石小屋 9:40→赤石岳 13:25→百軒

洞山の家 15:50 小屋泊（夕食のみ）

## 第3日 聖岳～聖平へ 7月26日（金） 行動時間8時間 20分

出発時は晴れていたものの、中盛山を過ぎると雨が落ちてきた。幸いに風はないが降ったり止んだりでは展望は得られない。



百軒洞山の家 の道標には「聖小屋まで7時間」とある。うまくいけば茶臼小屋まで行けるかも？と思っていたが、聖岳の登りは中々手強く聖平で終了することにした。



小屋で話を聞くと、「今夜は大雨。明日は弱まるが、台風が近づいており、シャトルバスは明日の下山のみ乗れるが、27、28日は運行停止。」だという。小屋泊（素泊まり）とする。

夕方から大雨になった。同室の人たちとの話で、明日を逃すと2日間足止めになるので、塩見岳までの縦走を中止し、明日早朝に下山することにする。

百軒洞小屋 4:20→中盛丸 5:50→小兎岳→兎岳 7:55→前聖岳 10:30→聖平小屋 12:40

## 第4日 榎島へ 7月27日（土） 行動時間8時間

雨は小降りになっている。ヘッドランプを点けて、同室の人たちより早く出るが、登山道が見えず、一旦戻る。同室の人たち（10名）と一緒に道を探りながら歩く。4時半になると明るくなり一安心。登山口に着くと本降りになってきた。榎島まで車道を50分歩くのはウンザリしてしまう。20分位歩くとシャトルバスが乗せてくれた。正に地獄に仏である。

10:30のバスに乗ることができた。シャトルバスの運転手の、「これから大雨になると、道路状

況がどうなるのか分からないので、風呂に入ることなど考えずに早く帰った方が良い。」との話で、着替えもせずに早々に帰路につく。

聖平小屋 3：30→吊橋 7：00→登山口 8：30→榎島ロッジ 9：05

榎島ロッジ 10：30⇒シャトルバス⇒畑薙第一ダム 11：30

(文責 秋葉)